

VI 重点プロジェクト

○ プロジェクトの目的

県民総参加で森林資源を利活用する「山形モデル」の構築に向けた特に重要度の高い取組みを重点プロジェクトとして位置付け、効果的かつ総合的に展開していきます。

○ プロジェクトの実施

プロジェクトの実施にあたっては、関係機関や市町村、関係団体との連携の強化を図るとともに、実施主体が効果的に事業を展開するための体制づくりを行います。

1 再造林推進プロジェクト

(1) ねらい

森林資源の循環利用を確保するため、再造林を推進する新たなシステムを構築し、再造林率の向上を図る。

(2) 現状

- ・再造林やその後の保育の所有者負担が大きいことなどから、再造林が伸び悩んでいる
- ・再造林実績

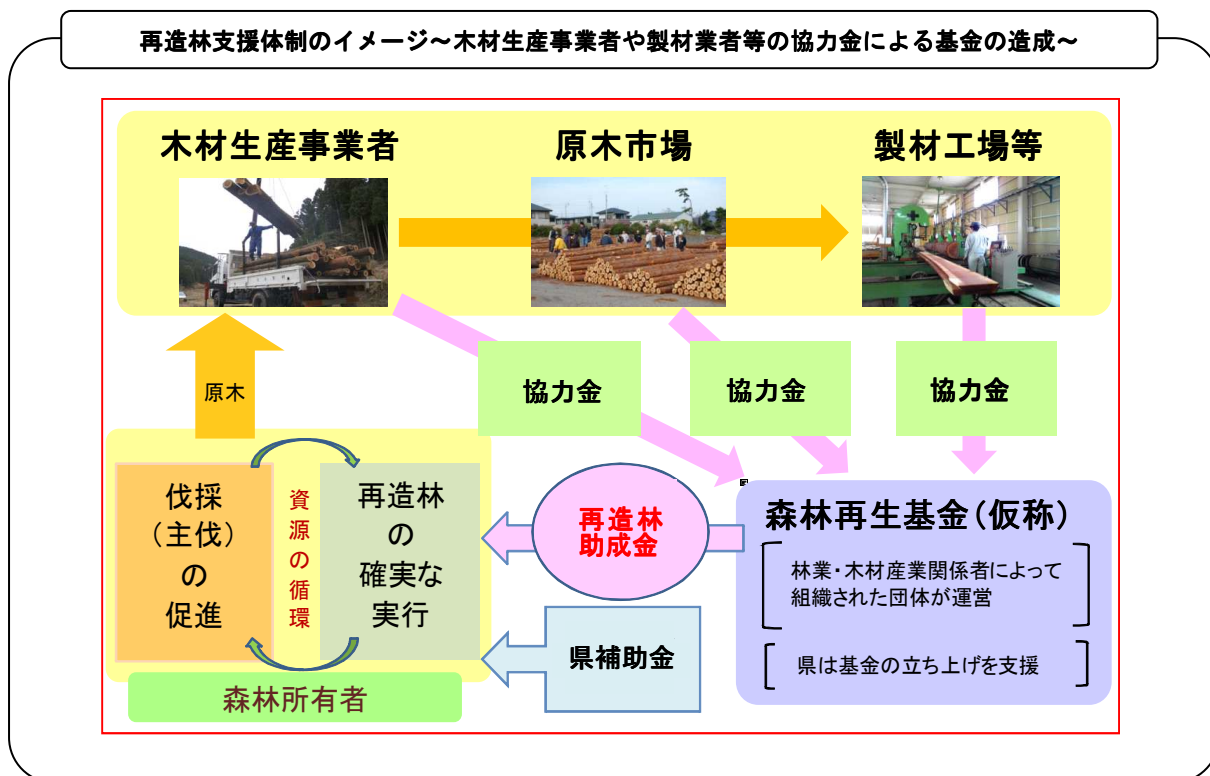
年度	主伐面積 (ha)	再造林面積 (ha)	再造林率
H25実績	150	22	15%
H26実績	84	20	24%
H27実績	116	38	33%
H31目標	300	255	85%

(3) 課題

- ・再造林を推進する新たなシステムの構築が必要

(4) 具体的な施策

- ・県、森林組合、木材生産事業者、原木市場、製材事業者、森林所有者等による再造林を推進する会議を開催し、再造林率の向上に向けた取組みを強化します。
- ・森林組合、木材生産事業者、原木市場、製材事業者等による協議会を設立し、事業者からの協力金を財源とした基金制度の創設と、事業者自らが再造林に助成する仕組みの構築を図り、再造林の確実な実行を目指します。



2 県産木材生産・加工流通体制整備プロジェクト

(1) ねらい

川上から川下までの事業者が連携し、県産木材の安定供給体制の構築、消費者ニーズに即した付加価値の高い木材製品の供給、A材の需要拡大等の取組みを行い、県産木材の利用拡大を図る。

(2) 現状

- ・ 県産木材製品生産量 68 千m³ (H27)
- ・ J A S 認定工場 7 工場 (県内工場数は 118) (H27)

(3) 課題

- ・ 県産木材の安定供給、県産木材の高付加価値化、A材の需要拡大

(4) 具体的な施策

川上、川中、川下の各段階で付加価値がつく収益性の高い原木及び製品の生産体制の構築に向けて取組みます。

<川上対策>

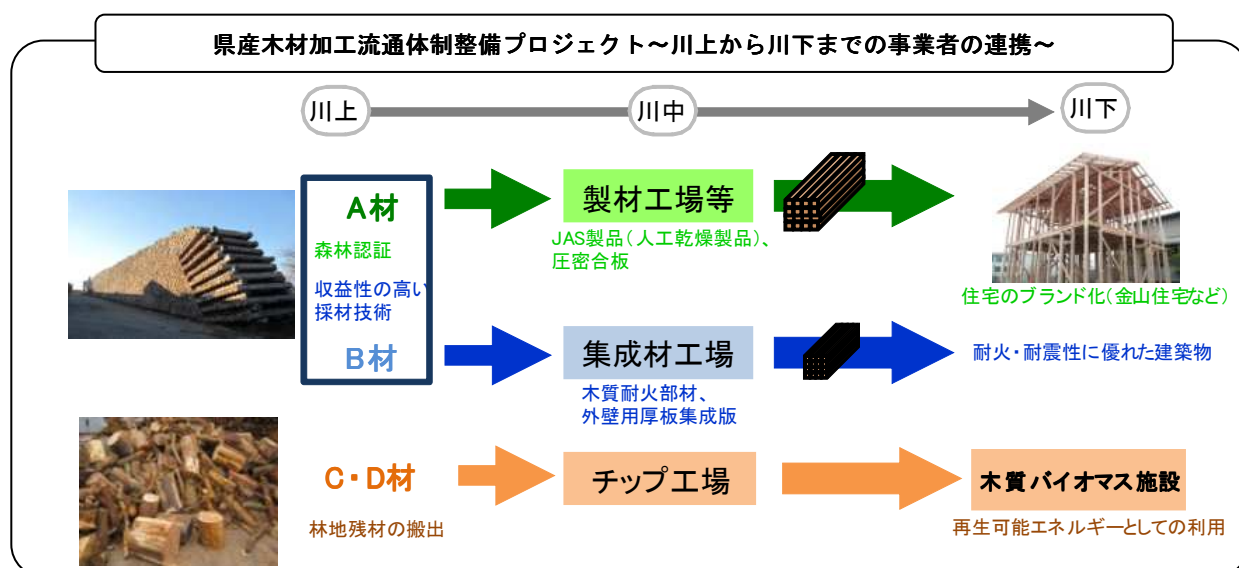
- ① 原木供給団地の設定による林業生産性の向上と効率的なシステムの構築を目指す事業者を支援します。
- ② 効率的な集材をするための高性能林業機械の導入等への支援を行います。
- ③ 持続可能な森林経営を目指す森林管理認証を取得する事業者を支援します。

<川中対策>

- ④ 製材業者の J A S 認定取得に向けた技術指導や認定に係る支援を行います。
- ⑤ 森林管理認証林 (FM 認証林) から生産される木材管理に関する認証 (CoC 認証) の取得を支援します。
- ⑥ 「やまがたの木 (A材) 利用拡大戦略」に基づく生産施設の高度化、県産木材を活用した耐火木構造部材の製品開発等を支援します。

<川下対策>

- ⑦ やまがたの木利用拡大プロジェクトに基づく、県産認証材「やまがたの木」の利用拡大や、県内の家づくりネットワークの活動を支援します。
- ⑧ 木質バイオマス燃料の供給システムの構築支援を行います。



3 県産木材率先利用プロジェクト

(1) ねらい

空港、駅、バス待合所等、展示効果の高い民間施設の木造化・内装木質化を支援し、民間施設の木造化率の向上につなげる。

(2) 現状

- ・ 公共施設の木造・内装木質化 (H27 実績)
(公共施設の木造割合 66% (25 施設/38 施設))
- ・ 民間施設 (事務所、店舗等) の木造・内装木質化 (H27 実績)
(民間施設の木造割合 43% (449 施設/1,046 施設))
うち店舗の木造割合 36% (35 施設/96 施設)
- ・ 公共施設に比べ民間施設の木造の取組が低位

(3) 課題

- ・ 展示効果の高い民間施設の木造化・内装木質化の推進

(4) 具体的な取組

- ① 公共建築物における「県産木材の率先利用」の取組みを、民間施設の木造化・木質化にまで拡大するよう普及啓発するとともに、民間施設の木造化・木質化を支援します。
- ② 交通拠点施設 (空港、駅、バス待合所等) と周辺施設 (コンビニ・商用ビル等) の木造化・木質化を推進します。
- ③ 東北芸術工科大学等と連携し、デザイン性を高めた建築設計の提案、情報提供を行います。

県産木材の率先利用プロジェクト～民間施設の木造化・木質化推進～

森林ノミクスの加速化 → 県産木材の率先利用

民間の施設整備に対する普及啓発・支援

【拠点整備】

交通拠点施設の木造化・木質化
(空港、JR施設、バス待合所、道の駅)

【面的整備】

拠点施設から周辺施設への木造化の波及
(コンビニ、商用ビルの木造化・木質化)

【木材を利用しやすい環境整備】

デザイン性を高めた建築設計の提案・情報提供
(県内外の建築士等との連携) 等



バスターミナル
(JR秋田駅前)



秋田空港 (出発ロビー)



JR秋田駅 (改札)



宮崎空港 (保安検査場)



木造コンビニ (建設中: 秋田県)

4 「林工連携」推進プロジェクト

(1) ねらい

林工連携を推進する体制を構築し、消費者ニーズに対応した木製品の開発等を推進することにより、森林資源の利活用の推進を図る。

(2) 現状

- ・森林分野と他業種のつながりが少ない
- ・必要な森林資源が安定的に入手できない
- ・県内の事例

(太陽光発電パネル木製架台の製品化、木質チップ圧縮脱水機の開発、スギ材の圧密成形加工技術の開発)

(3) 課題

- ・林工連携等を推進する体制の構築
- ・消費者ニーズに対応した、デザイン性の高い魅力的な木製品の提供

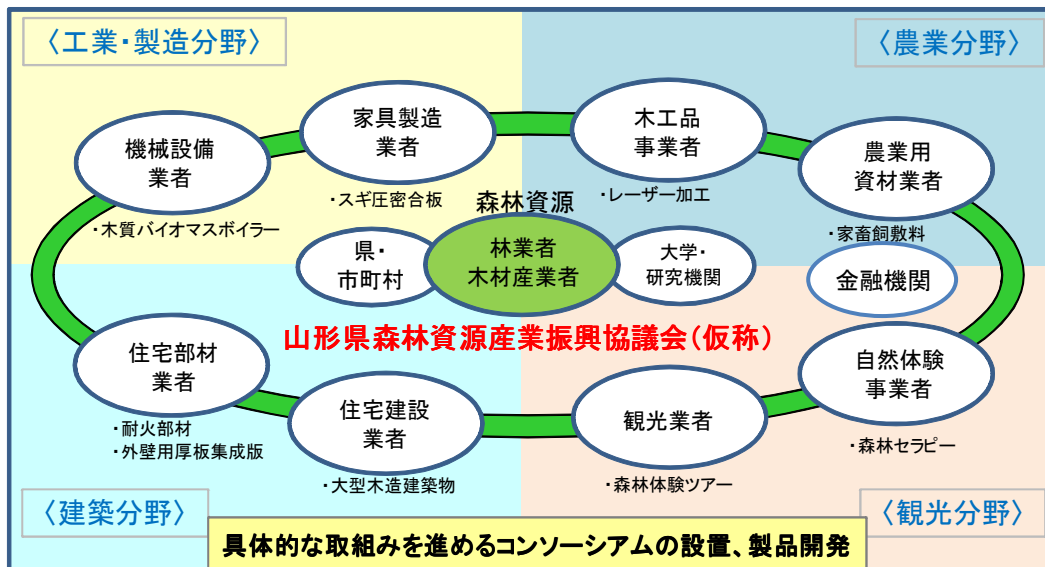
(4) 具体的な取組

- ・県産木材の需要拡大を推進するため、林業と他産業が連携する林工連携の推進体制を構築します。

① 林業者、木材産業者と工業製造分野（機械設備業者、家具製造業者）、農業分野（木工品事業者、農業用資材業者）、建築分野（住宅部材業者、住宅建設業者）、観光分野（自然体験事業者、観光業者）等、幅広い分野の事業者による「山形県森林資源産業振興協議会（仮称）」を組織し、新たな連携を誘発するとともに、専門アドバイザーの配置による支援等を行います。

② 事業者間で構成するコンソーシアムの設置と製品開発等の事業に対して支援します。

「林工連携等」等の推進プロジェクト～「山形県森林資源産業振興協議会（仮称）」の組織化～



県の支援

山形県森林資源産業振興協議会（仮称）の設立・運営支援（専門アドバイザーの配置）

5 県民総参加促進プロジェクト

(1) ねらい

県民一人ひとりの森林資源利活用の意識醸成を図り、県民総参加のやまがた森林ノミクスの推進を図る。

(2) 現状

- ・山形県の豊かな森林資源を活用した地域活性化条例の制定
- ・地域活性化に向けた森林ノミクスの加速化が必要

(3) 課題

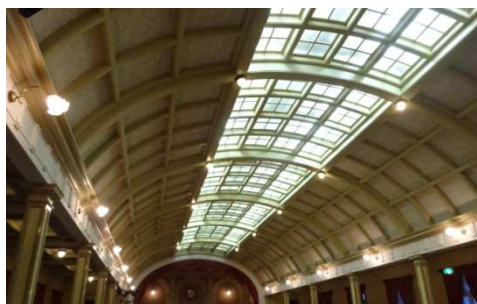
- ・県民一人ひとりによる森林資源の利活用の促進

(4) 具体的な取組

＜森林資源利活用の県民意識醸成＞

①やまがた森林ノミクスの県民への広報活動や普及活動を行うとともに関係団体、市町村、NPO等に働きかけ、森林資源やその利活用について、県民意識の醸成を図ります。

②森林や木造公共施設、歴史的木造建造物等に関する情報の紹介などを行い県民が森林や木造建築物について親しむことができる機会を提供することで、やまがた森林ノミクスの取組みへの参加意識の醸成を図ります。



【重要文化財 旧県会議事堂】
県産スギ・マツ材を使用して復元

＜森林資源の利活用の見える化＞

③森林資源の利活用の見える化を推進するために、行政、企業、民間団体が行っている森林ノミクス推進に関する取組みや森林資源の利用に関する様々な情報について、事例集やガイドブック等として取りまとめ、広く県民と情報を共有します。

＜やまがた森林ノミクス推進のための県民運動＞

④幼児期から木に親しむ（スタート）、小中高生が木を学ぶ（スクール）、事業所等における県産木材の利用（オフィス）、日常生活での木のある暮らし（ライフ）の4つの「木づかい」を進めることにより、生涯にわたって、やまがたの木に包まれた「しあわせ（4合わせ）」な生活を送ろうという県民運動を展開します。

⑤県民が森林の多面的機能や木材利用の意義について理解と関心を深めることができるように、森林に関する様々な情報を収集し情報発信するなど、森林環境教育（木育を含む。）を推進します。



【森林づくり活動の様子】



【子どもの木との触れ合い】